



慶安御觸書



73
6203



慶安御觸書

73

6203

吉田御貯書

吉田御貯書



文久

一 公儀御法度と忍び地代代友の事とあらうに
 存せず。お又名に他代とハ其の親とありへき事。
 一 名に他代と仕る者地代代友の事改ち切なぬ。
 年貢を融融。

公儀御法度と背う。小右姓方もらと融仕るやに
 中候も一。お又名に他代とハ其の親とありへき事。
 小右姓方

公儀御用の事付いて。あふらう用ひざるものふ

いふ。芳村とて一畝。不毎はさるやう。常く
をうけしるべき事。

一 名を心持我々中思き者なりとも。正理なる義を
かけず。又中より者なりとも。依怙是負なり。小百姓と
語りて。年貢別後木のり。女も言ふれ。ろくに
中へすべし。お又小百姓名は地改の中へす。の連家かく。
急を中へしるべき事。

一 耕作は精を入。田畑の植松同く梅や。小念をいれ。

いふはえざるやに仕るべし。業を能くする。さう他の
る一畝入を仕へ。他もよく出ま。実も多しある。又
田畑の境小大を小まると植木たるに仕るべき事。
一 朝記とつて。朝業と刈屋。田畑耕作は。既にハ
縄をなひ。俵とあり。何れもそれ。の仕事。油改れ
仕るべき事。

一 酒菜と買のこ。小百姓の妻も同様の事。
一 里方の屋敷の也。小竹木と植下菜なりとも。あり。

雑穀と作り。米と多く食つていふぬやに仕づく。
候煙の時に存せし一斗の大豆の葉、小豆の葉、小角を
の系芋の葉、紫打など、むこを控ひ、白飯かきこひ。
一家に子位下人おとふび、なほど疏飯とらふ。
但田畑をこし。田と種、稲と刈、一入りおや志んハ
ふだんより夕一食おとくはぬつ。ほ山よりをせ
きい、種くひ、そん、竹あ、種とむきもの、の、事。
一何とぞ了。牛馬のよれと、おやに仕づく。解牛の種

こえと多く、おひのよ、おとな、ざるもの、は、せ、ぬ、
及ぶ。ま、ら、か、れ、こ、心、げ、よ、く、い、毎、事、中、午、の、に
例、ひ、の、と、秋、さ、れ、支、夜、仕、く、い、田、畑、刈、き、あ、り、と、も。
そ、外、何、と、え、さ、り、と、終、入、ハ、は、く、よ、れ、実、れ、あ、る、の、
一男は他とかせぎ。女房ハ、草、は、さ、と、う、せ、ぎ。夕、た、ん、と
仕、り。支、ぬ、と、い、せ、ぎ、よ、く、い、終、れ、が、み、め、こ、ち、よ、れ、女、房
なり。い、ま、の、こ、と、お、ろ、う、ふ、存、し。大、茶、の、み、お、ま、わ、り
お、山、す、き、ま、る、女、房、と、齋、が、す、魚、し。玄、な、ら、う、る、と、も

多くこれあり。あまの原もともゆる女房あふる者あり。
又みめかしも何れも。又の原帯とち切りしす
女房とバ。いふも態は侍る。魚き事。

一 公儀申法度何れもお背す。申すも以事志れざる
牢人中に抱立へし。取盗目起し。

公儀申法度を背いし。つものたど。口中かかれ居。
訴人これあつこ

公儀へ百連糸。法會儀中お遣へ。は乃印々中れ

くさぎさよ。又名之。総匠長百姓。一々の悪石姓よ
悪まれのぬ中に。おどし。正は信るん。持事。

一 百姓は衣服の長布本綿よりか。帯きりの裏にも
仕るま。き事。

一 女は高がらもこれあつて。身とりらるげ。公中一
仕るべく。その細い年貢のため。粒穀を賣い。

一 又は買ひも。高がられく。ハ。人ぬるもの。い。
一 身と成り。考り。田畑をも多く。持事。身と成り。

いりの子 佐多公 人ともくた。又まともくさせ。
年中れ口すまのほしともしく考すま事。

一 屋敷のその庭と茅葺きより。南じまを交へて。
先ハ稲妻とこま。大まともち。雑穀とらうらひん。
庭阿くくハ。七夜ま。やいて。賣ひのも。虫取やま。
此の亦失墜よなりい事。

一 他乃切者なる人。ま。ま。田畑のお。た。た。庭とま。ま。
やに毎年をけしき事。

附りしつけに他つて。た。た。た。又はく。ふ。
あつけこそ。婦人。く。の。あ。他。ま。ま。下。田。も。
上田乃他毛。よ。ま。り。い。る。り。

一 不よは。よ。る。く。い。ど。も。麦。田。は。た。る。庭。ま。ま。と。ハ。カ。イ。
なりとも。え。え。く。い。ま。ハ。ま。り。麦。田。ハ。成。い。ハ。
百姓のため。大。ま。る。庭。ま。ま。一。ハ。麦。田。と。は。ま。ハ。隣。り。
その心。ま。り。あ。る。の。よ。い。事。

一 春秋をとい。く。煩。い。い。ぬ。や。に。常。く。ま。ら。る。が。く。で。

何ほど他は精と入夜とさんぶしても。煩い(ば)年此
依とるづ。身と使(づ)一(づ)ものなる。さんぶ(づ)あり。
女房子儀も同様の事。

一 多紫彩香(たむらひ)香(か)る(る)あ(あ)は(は)食(く)にも(も)あ(あ)は(は)結(む)白(く)味(あ)ね(ね)了(了)
成(な)り(り)の(の)よ(よ)も(も)そ(そ)上(じやう)像(ざう)も(も)け(け)代(だい)も(も)入(い)火(くわ)の(の)利(り)も(も)あ(あ)く(く)ら(ら)
百(ひゃく)事(じ)に(に)換(か)る(る)の(の)よ(よ)事(じ)。

一 年(ねん)貢(きゆう)と(と)し(し)の(の)義(ぎ)反(はん)列(りやう)も(も)け(け)て(て)い(い)き(き)反(はん)身(しん)何(なに)れ(れ)ど(ど)き(き)に
か(か)けて(て)い(い)き(き)石(いし)も(も)何(なに)れ(れ)ど(ど)。割(わり)付(つけ)瓦(が)紙(し)地(ぢ)代(だい)友(ゆう)も(も)り(り)も

い(い)し(し)の(の)た(た)い(い)へ(へ)耕(かう)他(た)は(は)精(せい)と(と)入(い)れ(れ)と(と)他(た)り(り)。元(もと)来(きた)多(た)く
た(た)れ(れ)あ(あ)ら(ら)ば(ば)き(き)身(み)の(の)徳(とく)も(も)悪(あく)く(く)い(い)へ(へ)人(ひと)志(し)だ(だ)め(め)の(の)ひ(ひ)け
に(に)い(い)事(じ)。

一 年(ねん)貢(きゆう)皆(みな)傳(でん)の(の)初(はつ)年(ねん)の(の)外(ほか)赤(あか)糸(いと)を(を)斗(と)に(に)注(つ)す(す)。何(なに)も
休(やす)む(む)き(き)や(や)ら(ら)な(な)る(る)時(とき)。中(なか)と(と)かり(かり)あ(あ)る(る)き(き)い(い)ど(ど)も(も)。皆(みな)傳
時(とき)分(ぶん)あ(あ)ら(ら)る(る)ん(ん)お(お)れ(れ)ず(ず)も(も)き(き)で(で)る(る)ふ(ふ)ら(ら)つ(つ)て(て)。年(ねん)あ(あ)外(ほか)
を(を)斗(と)に(に)お(お)供(く)又(また)牛(うし)馬(ま)も(も)く(く)ん(ん)だ(だ)農(のう)民(たう)も(も)き(き)る(る)お(お)あ(あ)ど
き(き)ん(ん)も(も)り(り)い(い)ん(ん)も(も)を(を)分(ぶん)か(か)り(り)仕(し)え(え)い(い)と(と)あ(あ)ら(ら)外(ほか)も(も)ら(ら)も(も)

おしくお事よ。又うらおちやうさるものハ。高利よ
身を借いひよく失墜なるもの。地代友より割付
いふてそ積と仕不足は付ていまくを借りいて済すし。
あかどハ借おの利もやしく。賣物もちりまするべし。
を納じまきまともやく納むし。手あは墨をど前も
喰盗人火事その外万事小付大者換すとい。細をば
終りてそ承ふすべし。なぬびるれハ碎いてめん承えい。
よしくんはあふる魚きま。

一 才指を悪あつし。と年比は負不足は付。たはば
身と計借わがかり。年貢よいし。そ利も通て積りいハ。
五年に元利の身指ハ借よる。と時ハ方神と借。妻よと
うら。我身をもうら。子孫よいななくくるむいよい。
け長と解て考へ。方指と借を極くい。まかど身計借の
志ぶんハ身の中にならよ。年一の利を借りいハ。かくれ
ぶくい。お又何とぞい。と身と計借ほどい。めいハ。
右の利ふとて。十年目よ身指七借もらうら。右姓ハ

かせぐりのよひ。一郡の内をさやうなるを二村いれあはせ
一郡みかちもちとかせむたい。二郡の民皆豊あり。
その後、隣にてもさひきあり。地政はかゝるもの。百姓は
末代に赤の名田と倭とするものあり。一は赤とつて、
方とくぬい。百姓の大ききある地分を見は、いれさくいや。
お又一は、佐るるを法よの一人あれ。口中後よのなまらふ。
百姓なるものさひたえむ。

二儀乃市はなむを背ひ。ばそのものとまはるるさきあり。

と下れがよさ。番ホ下の苦勞。一は乃費えきなるもの。
のどいまいぬゆに。みかく能入る。け強は
名にたるもの心はこれあり。もしく百姓はきりく。一は
附り隣りの者も中絶。他はの去る事おはるる。
一親小能く老けの心深くあるべし。おやも老けの事ハ。ま
まはも頼いの甲に。お又大酒と愛のみ。喧嘩すま仕
ちやに。おちさす。兄弟中よく。兄弟を何それ。
貴い足もあさひ。たがひもむつま。けん。親とのおねが

吉田

地方役所

貯書脩身學

愛知縣下三好志若翁

一 秋田布之長

山本長壽

吉田地方役所

之與第三大園二

一 園之長小標

本...

